

提出日：平成 21年12月14日

第 8 回 「情報活用型授業を深める会」参加報告書

小野寺香絵（東北大学大学院情報科学研究科 技術支援スタッフ）

場所
せんだいメディアテーク 7F スタジオ
日程
第 8 回 2009 年 12 月 12 日（土）14 時 30～17 時 30 分
大学参加者
関本英太郎（教授）・窪俊一（准教授）・篠沢和久（准教授）・小野寺香絵（技術支援スタッフ）
出席者数
約 20 名
目的
情報活用型授業に関する現場での取り組みや最新の動向について勉強する
概要および成果
【概要】 第 8 回 より良い授業実践研究会にする「質問力」とは 1. “授業実践研究会”における発表と質問を考えるポイント はじめに、東北学院大学の稲垣忠准教授から、より良い実践研究会を求めるために必要なポイントが、発表者と質問者のそれぞれの立場から説明された。その後、市内高等学校教諭より、授業実践研究会の質を高める「質問力」を伸ばす方法について話があった。 2. 「質問」を考えてみよう！ 発表者のレジュメを見ながら個人で質問を考えた後、グループで質問内容を共有し内容ごとに分類した。 3. 実践発表を聞いて質問攻めにしよう！ (発表)各 15 分 ① ICT 機器その活用法と効果・課題についての一考察 仙台市立鶴が丘小学校・教諭 丹治重廣 ② ICT を積極的に活用した授業の試み 仙台市立松陵西小学校・教諭 遠藤浩志 (質疑)各 15 分

おもに、若手教員からは授業実践の意図やノウハウに関する質問が、ベテラン教員からは結論に関する指摘や発表者への提案が、活発に交わされた。

4. まとめ

東北学院大学の稲垣忠准教授により、より良い質問とは「授業実践がより良くわかる」「変容がより良くわかる」「今後活かせる」内容であるとまとめられた。

【成果】

発表①からは、学校全体の取り組みとして、ICT 活用に関する校内通信の発行や研修が継続的に行われ、事例の蓄積と共有化、教員のスキルアップがされていることがわかった。

また、発表②からは、歴史学習で「場面」「視聴形態」「記録」を工夫した放送番組の活用を行ったことで、人物や時代のイメージ化に効果があったことがわかった。

さらに、今回の会のテーマであった「質問力」を参加者が身につけたことにより、質の高い質疑応答が交わされ、より深く現場での取り組みを知ることができたように思う。